



長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

Team

NAOTOMI

直富商事株式会社

長野県長野市大豆島3397番地6

TEL:026-222-1880

<https://www.naotomi.co.jp>



▲HPIはこちら



▲インスタはこちら



2026

直富商事株式会社

CSR報告書

持続可能な循環型社会の 実現に向けた取り組みと歩み

直富商事株式会社
代表取締役

木下 繁夫
Shigeo Kinoshita



平素より直富商事をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

先期、長年の懸案でありました焼却炉の新設が完了し、熱回収による廃棄物発電も可能となりました。焼却時に発生する廃熱の利用によって、よりサステナブルでより良い未来を実現するための地域貢献の一環として、今後さらに一役買ってまいります。

各事業部においては、設備の入替えや新設も積極的に行いました。特に蛍光管と電池類の中間処理設備を新たに導入したことは、地域における処理施設不足を補う役目も果たすことができました。また、脱炭素社会へ向けた取り組みも加速させており、化石燃料代替となる高純度BDF（バイオディーゼル燃料）が「信州リサイクル製品」に認定されました。そしてRPF（固形燃料）においては、製造量を2倍超に増産する体制を整えました。

外部活動として、東京都にて開催された「2025NEW環境展」[SDGs Week EXPO2025]へ初出展すると共に、大阪・関西万博においても、東海旅客鉄道株式会社様をはじめとする他企業様と共に「東海道新幹線再生アルミ」のブース展示に参画させていただくことができました。長野県内では、

フードバンク信州様へ社員から集めた食品を年5回継続して寄付を行い、長野県立大学様へは学生支援を目的とした寄付もさせていただきました。

海外では、中国直富希望小学校への支援やカンボジアへ井戸を掘る支援活動を継続的に行っており、加えて昨年は、カンボジアのアンコール人材養成支援機構様へ50台のパソコンを寄付させていただきました。

2025年5月には経済誌「日経ビジネス」に、12月には米国誌「TIME」、そして2026年3月には株式会社タナベコンサルティンググループ様が発行するTCG誌に当社記事が掲載され、多方面の多くの方々にご注目いただき、大変ありがたく思っております。

地域スポーツへの支援では、当社所属女子スピードスケート山田梨央選手が「ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック競技大会」へ初出場し、1000mが7位入賞! 500mは9位と素晴らしい成績を挙げてくれました。山田選手の日頃の努力の成果と才能が開花した瞬間であり、ご声援いただきました全ての皆さまへ、所属企業を代表して心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

会社概要

会社名 : 直富商事株式会社
本社所在地 : 〒381-0022
長野県長野市大豆島3397番地6
代表者 : 代表取締役 木下 繁夫

設立 : 1975年3月10日(創業 1948年/昭和23年)
資本金 : 49,000千円
売上高 : 172億50百万円(2026年2月期)
従業員数 : 741名(2026年2月末現在)

□ 米国誌『TIME』に掲載されました



インタビュー関連記事
「The Innovators」の
日本語訳はこちら ▶



会社紹介ページの
日本語訳はこちら ▶



代表取締役の木下繁夫が、米国の雑誌「TIME」のインタビュー取材を受けました。12月29日発売の同誌アジア版に、インタビュー関連記事「The Innovators (ザ・イノベーターズ)」及び、当社紹介が掲載されました。TIMEは世界で1億人以上の読者を持つ国際的ニュース誌で、APAC圏25か国でも約1,620万人に読まれています。記事では、当社の地域密着型の廃棄物処理事業、長年の専門性、持続可能な社会づくりへの姿勢が紹介されました。また、「The Innovators」では、当社の取り組みが関連記事として取り上げられています。

経営ビジョン

□ 経営理念

- 地域に愛され、必要とされる会社とする。
- 社員が物心共に幸福と思える会社とする。

□ 行動指針

- 安全・遵法第一、営業第二。
- 全てにおいて、常に顧客目線で考え、行動する。
- 責め心の無い厳しさ、馴れ合いでない優しさを持ち続ける。

□ 経営ビジョン

1. 市場・社会でのポジション

- 長野県環境関連産業のリーディングカンパニーとなる。
- 経営目標達成により長野県内における当社の存在感を高めると共に、顧客満足度No.1企業を目指す。

2. 事業運営の将来像

- 当社が競争優位性を確立できる事業分野を中心に長野県内をマザーマーケットとして広域で事業展開する。
- 時代の変化に合わせて柔軟に中核事業の事業モデルを変革していく。
- 労働集約型業務を削減し、作業の効率化・省力化を進め、一人当たりの生産性を業界トップクラスにする。

3. 組織と人のあり方・関係

- 社員の育成計画を明確に設定したうえでジョブローテーションを行い、組織・人材の活性化を図る。
- 長時間労働を排除し、決められた時間内で最大限の成果を追求する企業文化を定着させる。
- 受け身、指示待ちの職場風土を“自ら考え行動し挑戦する”ことが重視される職場風土へ変革する。
- 人を活かし、育てる企業風土を醸成する。

4. 環境負荷低減への取り組み

- 使用電力に起因するCO₂の(みなし)排出量をゼロにする。
- 使用燃料によるCO₂排出量10%分の削減に寄与する。

サステナビリティの取り組み

●私たちは、事業活動を通じて社会課題の解決に取り組み、サステナブル社会の実現に貢献します。

- 1. 環境への配慮** 私たちは、廃棄物の適正な処理及び再資源化を通じて、限りある資源の有効活用と環境負荷の低減に取り組んでおります。特に、産業廃棄物の高度な選別により高品質なRPF（固形燃料）を製造するほか、使用済み食用油から高純度BDF（バイオディーゼル燃料）を精製するなど、エネルギー資源としての再利用にも注力しております。これらの取り組みを通じて、持続可能な循環型社会の実現に貢献し、次世代へと繋がる環境価値の創出を目指しています。
- 2. 社会貢献活動** 私たちは、地域社会や社会全体への貢献活動に積極的に取り組んでいます。特に子どもたちへの支援活動は食糧支援、教育支援、健康支援、スポーツ・文化活動の支援等、子どもたちの将来の可能性を広げ、社会の発展に貢献する重要な役割と考えて継続的に取り組んでいます。
- 3. 従業員の福祉** 私たちは、常に従業員の健康と安全を最優先に考え、働きやすい環境の整備や福利厚生の充実を図っています。健康診断再検査の推奨・ストレスチェック100%実施等の取り組みが評価され、健康経営優良法人に認定されました。また、労働条件の改善やキャリア開発支援等、従業員の生活と働き方の向上にも取り組んでいます。
- 4. 透明性と責任** 私たちは、企業の透明性と責任を重視し、持続可能な事業運営を行っています。経営方針やCSR（企業の社会的責任）活動の情報を公開し、ステークホルダーとのコミュニケーションを大切にしています。

井戸を世界中に22万基掘る会カンボジアへの井戸寄贈

プラスチック、紙、金属等資源物のリサイクル

廃棄物の適正処理

従業員の健康管理

社員表彰等によるモチベーションアップ

環境美化活動

フードバンクへの寄贈 ども食堂への支援・学習用品支援

地元の方との懇談会実施

植樹

緑の基金

CO₂削減

地域スポーツへの貢献

リサイクル教育機会の提供

地域活動支援

教育支援

SDGs 達成に向けた重点的な取り組み

2030年に向けた指標

関連する目標



長野県SDGs推進企業（SDGsと企業活動を関連付け、具体的なアクションを進める県内企業等を長野県が認定する制度）に登録されています。SDGs達成に向けた重点的な取り組みと2030年に向けた指標を掲げています。

SDGs達成に向けた重点的な取り組み	2030年に向けた指標	関連する目標
受け入れた廃棄物・資源物のリサイクル率向上	リサイクル率: 92%達成 2023年度 89.9% 2024年度 91.0% 2025年度 91.8%	13 気候変動に具体的な対策を、14 海洋資源を保全し持続可能な形で利用する、15 陸域生態系保護を促進する
リサイクル教育機会の充実 (リサイクル授業、出前授業、小学生見学受け入れ)	件数:年間合計 30件 2023年度 20件 2024年度 24件 2025年度 17件	4 質の高い教育をみんなに
社員の健康管理 健康診断有所見者の 再検査 実施率向上	再検査実施率: 80% 2023年度 49% 2024年度 70% 2025年度 86%	3 健康な生活を、8 働きがい、経済成長を

スポーツ支援

■ スピードスケート

当社所属のスピードスケート 山田梨央選手は、日々の厳しいトレーニングと長年にわたるひたむきな努力の積み重ねにより、2025-2026シーズンに自身初となるオリンピック出場という大きな目標を実現しました。大会本番では、世界の舞台で堂々とした滑りを見せ、1000mにおいて7位入賞を果たすなど、これまでの成長と実力を存分に発揮しました。オリンピック出場は、山田選手にとってはもちろん、日頃から応援している社員や地域の皆さまにとっても大きな喜びと励みとなりました。今回の経験を糧に、山田選手は既に次なる目標に向けて競技に取り組んでおり、更なる飛躍が期待されます。今後引き続き、その挑戦を応援し、活動を支援してまいります。



2025-2026年シーズン結果

※一部大会のみ抜粋して掲載。その他大会結果は当社ホームページをご覧ください。

● 第25回オリンピック冬季競技大会結果

開催期間: 2026年2月6日~2026年2月22日

開催地: イタリア ミラノ・コルティナ

500m (37秒78) 9位

1000m (1分15秒16) 7位



▲現地応援



▲社内パブリックビューイング

● 2025/26 ワールドカップスピードスケート

ソルトレークシティー大会結果

開催期間: 2025年11月14日~2025年11月16日

開催地: アメリカ ソルトレークシティー

1000m (1分13秒29) 6位 ※自己新記録

● 第32回全日本スピードスケート距離別選手権大会結果

開催期間: 2025年10月24日~2025年10月26日

開催地: 日本 長野県長野

500m (38秒19) 3位

1000m (1分15秒15) 2位

1500m (1分56秒99) 3位



▲紹介ページはこちら

リサイクル率

当社は中間処理業者として、適正処理を基盤に、廃棄物の再資源化及びエネルギーの有効活用を通じた資源循環の推進に取り組んでいます。光学式選別機をはじめとする高度な選別機器類を連結した自動選別工程を活用することで、混合廃棄物を効率的に分別し、再資源化可能な“資源”としてRPF原料への活用を進めています。また、回収した使用済み食用油を原料とした高純度BDF（バイオディーゼル燃料）の製造を行い、軽油代替燃料として化石燃料の使用削減に寄与しています。併せて、新焼却炉稼働により処理体制を強化すると共に、焼却時に発生する熱エネルギーの有効利用（バイナリー発電）を通じて、廃棄物処理とエネルギー活用の両立を図っています。これらの取り組みを通じて、最終処分量の削減やリサイクル率向上に資する処理体制の構築を進めています。

廃棄物・資源物の受け入れ量

180,594トン

金属くず ペットボトル 廃食用油 繊維くず

木くず 廃プラスチック 紙くず 食品廃棄物 がれき類、ガラスくず類 等

直富商事で

破碎、切断、選別、圧縮、熔融固化、圧縮・結束、圧縮・固化、油水分離、エステル化、乾燥、堆肥化、焼却

等の処理を行い、再生資源としてメーカーへ出荷

リサイクル率

約 **91.8%**

(前年差:+0.8ポイント)

リサイクル量

リサイクルして還元 (主に取引先にて)

165,799トン

金属くずから鉄筋 ペットボトルからペットボトル 廃食用油から高純度BDF 繊維くずから工業用ウエス

木くずから木質ボード 紙くずから再生紙 食品廃棄物から飼料原料

廃プラスチックから再生プラスチック製品、RPF燃料 がれき類、ガラスくず類から路盤材 焼却物から発電(サーマルリサイクル)等

未来に繋ぐ廃棄物処理

— 発電プラントの導入で広がる安心と価値 —

1 廃棄物処理に“エネルギー創出”という新しい価値を

発電プラントの導入により、廃棄物の焼却で生じる熱を電力として有効活用できるようになりました。これまでの「単純焼却」の工程に、エネルギーを生み出す機能が加わり、廃棄物を資源として循環させる取り組みがスタートしました。

2 “安心して任せられる”を叶える処理体制

本プラントは、密閉性の高い構造と自動制御による安定運転により、廃棄物を確実かつ安全に処理できるよう設計されています。燃焼状況を常時見守る監視体制を強化し、安定した処理品質を維持することで、排出事業者の皆さまに“安心して任せられる”環境づくりを進めています。

3 乾溜ガス化燃焼発電の流れ

① 廃棄物の投入

受け入れた廃棄物を、乾溜ガス化炉へ投入します。投入された廃棄物は密閉環境のもと安定した条件で次の処理工程へ進みます。

② 乾溜ガス化（低酸素環境での加熱）

廃棄物は酸素を抑えた状態で加熱され、蒸し焼きのような環境で可燃性ガスと炭化物に分解されます。この工程で得られたガスが、後段の燃焼炉へ送られます。

③ ガス燃焼・高温熱の生成

乾溜工程で発生したガスは燃焼炉で空気と混合され、完全燃焼します。この際に得られる高温の熱エネルギーが、発電の主要な熱源となります。

④ 熱回収

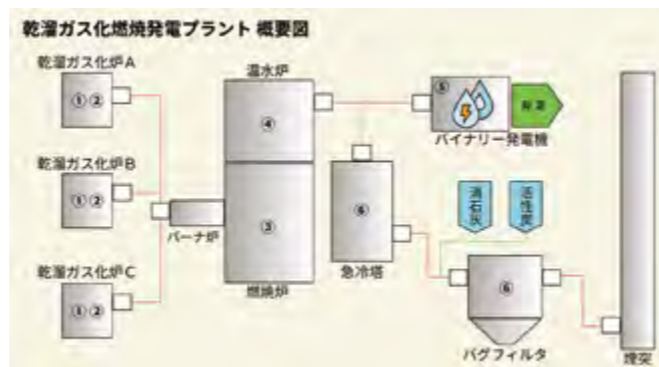
燃焼炉の熱を利用して温水炉で製造した温水をバイナリー発電機へ送ります。

⑤ バイナリー発電機による発電

温水によって低沸点作動媒体を沸騰させることにより発生した蒸気はタービンを回転させ、回転エネルギーが発電機に伝わることで電力が生み出されます。廃棄物に含まれるエネルギーを電力へ変換するプロセスの中心となる工程で、1日当たり最大3,000kWh発電されます。また、CO₂排出量は年間約365t（1日当たり約1t）削減しており、これは、杉の木約36,500本が1年間に吸収する量に相当します。

⑥ 排ガスの冷却と浄化

燃焼後のガスは急冷され、有害物質の再合成を防ぎます。続いて中和剤や活性炭の吹き込み、さらにバグフィルターで微粒子を捕集する浄化を行い、環境に配慮した措置を講じて排出します。



4 初期消火システムの導入による高度な安全性

お客様から受託した廃棄物をより安全に取り扱うため、廃棄物処理前保管庫に、温度の異常上昇及び僅かな炎も瞬時に検知する初期消火システムを導入しています。これにより、火災の早期対応を可能とし、施設全体のリスク低減に繋がっています。

5 燃え殻からの金属回収

2026年3月より、焼却後に残る燃え殻からの鉄資源回収をスタートさせています。従来管理型埋立に回っていた貴重な金属資源の再利用を進めると共に埋立量の削減も実現しました。次のステージでは、燃え殻に残る非鉄金属類の選別・回収・再資源化を目指します。

6 地域に寄り添い、環境負荷を抑えた施設運営へ

廃棄物を安定的に処理することは、地域の衛生環境を守るうえで重要な役割を果たしています。新プラントでは、密閉構造による臭気対策や、廃棄物発電によるCO₂排出の低減、さらに燃え殻からの金属回収及び埋立量削減など、環境負荷の低減に向けた取り組みを進めています。これらの取り組みを着実に進めることで、地域の環境を守りながら、より持続可能な廃棄物処理施設としての役割を強化しています。



当社秋古工場では、廃棄物の単純焼却ではなく、その過程で生じる熱を電力として活用する“乾溜ガス化燃焼発電プラント”を導入しました。

処理能力は従来の約3.3倍に向上し、投入口の大型化や、旧炉では焼却が難しかった汚泥・液体廃棄物への対応など、処理の生産性向上を図りました。また、焼却時の熱をエネルギーへ変換することで、サーマルリサイクル（熱回収）を実現し、脱炭素化への貢献にも繋がっています。事業活動から生じる廃棄物を、環境に配慮しながら安全に処理することは、排出事業者の皆さまにとっても重要な社会的責任の一つと位置付けられています。焼却発電プラントの稼働を通じて、当社は、安心して任せいただける処理体制と、廃棄物から新たな価値を生み出す循環の仕組みの更なる強化に取り組んでいます。



地域と働く人の安全を守るために

— 発火性危険物への適切な対処と安全管理 —

1 発火性危険物の混入例

受入現場では、リチウムイオン電池を含む電池の入った小型電子機器や、ガスの残るスプレー缶、使い捨てライター、加熱式たばこ機器などが、廃棄物や資源物に紛れ込んだ状態で搬入されることがあります。これら外見からは判別しにくく、適切に分別されずに搬入されると、廃棄物の収集運搬や処理工程で衝撃や摩擦が加わり、発熱・発火に至る危険性があります。こうした事例は全国的にも数多く報告されており、火災事故を防ぐためには排出段階での正しい分別が非常に重要です。なお、分別された電池類やスプレー缶などの発火性危険物については、当社において適正に処理することが可能です。

■発火性危険物の混入例



点火器具（ライター・チャッカマン等）



電動工具のバッテリー



可燃性ガスを含む加圧容器



ハンディ扇風機・二次電池



スマートフォン、携帯電話、モバイルバッテリー



電動工具（バッテリー付き）



工事用警告灯



二次電池(非常灯電池)



二次電池

2 火災を防ぐための取り組み

当社では、発火性危険物による事故を未然に防ぐため、「混入を見逃さない」「異常を早期に検知する」「初期対応を迅速に行う」という3つの視点から安全対策を進めています。主な取り組みは以下のとおりです。

- 受入段階での混入防止
- ① 外観チェックの徹底による不審物の早期発見
 - ② 危険物疑い品の詳細確認
 - ③ 必要に応じた排出者への情報共有（再発防止）

- 火災予防設備の強化
- ① 温度異常を自動検知する監視システム
 - ② 異常時に即時作動する初期消火システム [写真①参照]
 - ③ 第3工場ではAI煙検知システムを今期新たに導入 [写真②参照]

- 従業員教育・初期対応体制の強化
- ① 年間を通じた安全教育の実施
 - ② 火災を想定した防災訓練の定期実施
 - ③ 緊急時に迅速かつ適切に対応できる連携体制の整備



なお、本社第3工場では24時間常駐体制で監視を行い、異常の早期発見と緊急時の初動対応強化に努めています。

3 発火性危険物混入防止に向けた情報提供

1. 分別に関する情報提供・注意喚起

発火性危険物の混入を防ぐため、当社では、排出者や地域の皆さまから寄せられる相談や問い合わせに応じて分別上の注意点や留意事項をお伝えしています。また、受入現場で得られた事例や日々の業務で蓄積された知見をもとに、当社から必要に応じて適切な排出方法についてチラシ等を作成して情報提供を行っています。処理工程におけるリスクや安全な取扱方法を分かりやすく説明することで、混入の未然防止に向けた理解促進に努めています。一般家庭向けの分別啓発は市町村などの行政が主体となって実施していますが、行政から依頼や相談があった際には、現場での具体的な事例や安全管理に関する知見を共有し、地域全体の安全確保に向けて協力しています。

2. TV放送を通じた啓発協力

発火性危険物の混入による火災リスクへの注意喚起として、信越放送のTV番組『ZOOM UP! エコロジー最前線 ～防ごう! ごみ処理施設の火災事故～』の取材に協力させていただきました。番組では、当社で確認された混入事例や安全な排出方法が紹介され、発火性危険物の危険性や適切な排出方法について情報が伝えられました。今回の取材協力により、排出段階での正しい分別の重要性を改めて認識していただくことができました。



4 地域と共に、事故ゼロの環境を目指して

発火性危険物の事故を防ぐためには、排出者の皆さまの正しい分別が不可欠です。当社でも、安全管理体制や従業員教育、初期対応の強化などを進め、事故防止に努めています。これからも、地域と働く人の安全を第一に考え、信頼される処理体制と情報発信を続けてまいります。

サービス



一般廃棄物
事業系一般廃棄物や家庭から出る引越しごみ・粗大ごみの収集運搬を行っております。これらの業務は、地域の衛生的な生活環境を維持するうえで不可欠な「エッセンシャルワーク」です。また、ソファやマットレス、タイヤ、家電製品など、行政では対応が難しいごみの受け入れも、民間事業者として担っております。

6 6. 持続可能な都市とコミュニティ
9 9. 産業と資源効率
11 11. 持続可能な都市とコミュニティ
12 12. 持続可能な消費と生産
13 13. 気候変動への対応
14 14. 海の豊かさを守ろう
15 15. 陸の豊かさを守ろう

動画はこちら



産業廃棄物
産業廃棄物の収集運搬及び中間処理を行います。リサイクル可能品目は中間処理後に再生利用します。高精度な選別を行うことで廃棄物の埋立量を減らし、地球環境保全に貢献しています。

6 6. 持続可能な都市とコミュニティ
9 9. 産業と資源効率
11 11. 持続可能な都市とコミュニティ
12 12. 持続可能な消費と生産
13 13. 気候変動への対応
14 14. 海の豊かさを守ろう
15 15. 陸の豊かさを守ろう

動画はこちら



金属スクラップ
金属スクラップを収集・選別し、圧縮や切断加工した高品質なリサイクル素材を再生メーカーへ提供しています。このプロセスにより、天然鉱石から金属を製錬する際に必要なエネルギーを削減し、CO₂排出量の大幅な低減に貢献しています。

9 9. 産業と資源効率
11 11. 持続可能な都市とコミュニティ
12 12. 持続可能な消費と生産
13 13. 気候変動への対応
14 14. 海の豊かさを守ろう
15 15. 陸の豊かさを守ろう

動画はこちら



解体工事
豊富な専門知識と技術を活かし、安全かつ効率的な解体工事を提供しています。発生した産業廃棄物は適切に処理し、環境負荷の最小化に努めています。迅速かつ丁寧な作業と徹底した安全管理を実施し、常に高品質なサービスを提供しています。

9 9. 産業と資源効率
11 11. 持続可能な都市とコミュニティ
12 12. 持続可能な消費と生産
13 13. 気候変動への対応
15 15. 陸の豊かさを守ろう

動画はこちら



食品残渣
食品リサイクルは、廃棄された食品を有効に再利用し、廃棄物の量を減らし、環境への負荷を軽減するプロセスです。食品リサイクルの主目的は、食品廃棄物を再生可能な資源として活用することであり、地球資源の持続可能な利用を促進します。

2 2. 健全な食生活
9 9. 産業と資源効率
11 11. 持続可能な都市とコミュニティ
12 12. 持続可能な消費と生産
13 13. 気候変動への対応
14 14. 海の豊かさを守ろう
15 15. 陸の豊かさを守ろう

動画はこちら



古紙・機密書類
地域の資源回収や店舗、事業所等から排出される古紙類・機密書類を回収・加工し、製紙メーカーへ納入します。その後新しい紙にリサイクルされます。古紙リサイクルは、森林資源の保護や廃棄物削減に貢献し、製造時のエネルギー消費とCO₂排出量を大幅に削減する重要な取り組みです。

9 9. 産業と資源効率
11 11. 持続可能な都市とコミュニティ
12 12. 持続可能な消費と生産
13 13. 気候変動への対応
15 15. 陸の豊かさを守ろう

動画はこちら



高純度BDF(バイオディーゼル燃料)
使用済み食用油から高純度BDF(バイオディーゼル燃料)を精製し、ディーゼルエンジンを搭載した自動車、トラック、重機、フォークリフトなどの燃料として使用します。これにより、廃油を再利用し、環境への負荷を軽減することができます。BDFは、化石燃料の代替として、CO₂排出量の削減に貢献し、持続可能なエネルギー供給に寄与します。

7 7. エネルギーを上手に利用しよう
9 9. 産業と資源効率
12 12. 持続可能な消費と生産
13 13. 気候変動への対応



RPF (Refuse Paper and Plastic Fuel)
廃棄物を再利用して、RPF(固形燃料)を製造しています。RPFは、持続可能なエネルギー源として、エネルギーの再利用を促進します。化石燃料の代替として温室効果ガスの削減に貢献し、エネルギーの持続可能な供給において重要な役割を果たしています。

9 9. 産業と資源効率
12 12. 持続可能な消費と生産
13 13. 気候変動への対応
15 15. 陸の豊かさを守ろう

動画はこちら



プラスチック
プラスチックリサイクルは、廃棄物削減や資源の有効活用を促進し、石油由来原料の使用を削減します。その結果、製造エネルギーの節約やCO₂排出量の大幅削減を実現し、地球温暖化防止と持続可能な社会の実現に貢献します。

9 9. 産業と資源効率
11 11. 持続可能な都市とコミュニティ
12 12. 持続可能な消費と生産
13 13. 気候変動への対応
14 14. 海の豊かさを守ろう
15 15. 陸の豊かさを守ろう

動画はこちら



資材販売
衛生環境の維持及び安全な作業環境づくりに貢献するため、ニトリグローブやマスクなどの衛生用品に加え、廃棄物の適正管理に欠かせないフレコンバッグ・半透明フレコン、また冬場の融雪及び路面凍結防止用の塩化カルシウムなど、各種資材の販売を行っております。

3 3. 健全な経済を成長させよう
8 8. 持続可能な消費と生産
11 11. 持続可能な都市とコミュニティ
12 12. 持続可能な消費と生産

動画はこちら



貿易
国際的なネットワークを活用し、各国の環境規制や市場動向を考慮した輸出入手続きを通じて、持続可能な資源循環を支援しています。また、海外パートナーとの連携強化により、高品質なリサイクルプロセスを実現し、地球規模の環境保全に貢献しています。

12 12. 持続可能な消費と生産
17 17. パートナーシップを強化しよう



ビルメンテナンス
専門技術者を擁し、工場・ホテル・事務所ビル・複合商業施設等の建物管理全般に多くの実績と経験を持ち、「美と心地よさを残す」建物管理を行っています。

3 3. 健全な経済を成長させよう
6 6. 持続可能な都市とコミュニティ
8 8. 持続可能な消費と生産
11 11. 持続可能な都市とコミュニティ

動画はこちら



技術研究・分析・環境計量証明
将来発生する廃棄物の再資源化技術や既存技術の低コスト化・低環境負荷化・省人化を目指した研究開発を行い、排出事業者にリサイクル提案を行っています。また、環境計量証明事業所として高い分析能力を活用し、工場等の排水や騒音・振動の計量証明や廃棄物の溶出試験を正確かつ迅速に実施し、工場管理や廃棄物の適正処分に役立てています。

3 3. 健全な経済を成長させよう
6 6. 持続可能な都市とコミュニティ
9 9. 産業と資源効率
12 12. 持続可能な消費と生産
13 13. 気候変動への対応
15 15. 陸の豊かさを守ろう

動画はこちら



車両整備・法定検査
自動車特定整備事業の認証を取得し、車両の法定検査・修理サービスを外部のお客様にも提供しています。基準に基づく整備体制と品質管理のもと、事業者・地域の皆さまが安心して車両を運行できる環境づくりを支援しています。また、適切な車両整備を行うことで、車両の長寿命化や環境負荷の低減にも寄与し、地域社会の安全と持続可能な産業基盤の構築に取り組んでいます。

8 8. 持続可能な消費と生産
9 9. 産業と資源効率
11 11. 持続可能な都市とコミュニティ
12 12. 持続可能な消費と生産

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

時代の変化や課題に迅速に対応し、事業を通してSDGs(持続可能な開発目標)の実現を目指します。

●高純度BDF(バイオディーゼル燃料)が「信州リサイクル製品」に認定!

12 12月 2024年 12月 2024年
 当社の市場事業所で製造している 高純度BDF (バイオディーゼル燃料) が、長野県の「信州リサイクル製品」に認定されました。
 「信州リサイクル製品」は、県内資源を有効活用し、環境負荷の低減に貢献する製品として認定されるものです。今後も、地域資源を活かした循環型社会の実現に向けて取り組んでまいります。



●『2025NEW環境展/地球温暖化防止展』及び『SDGs Week EXPO2025:エコプロ2025』に出展

12 12月 2024年 12月 2024年
 2025年5月28日(水)～30日(金)に東京ビッグサイトで開催された「2025NEW 環境展/地球温暖化防止展」及び同年12月10日(水)～12日(金)に開催された「SDGs Week EXPO 2025」の「エコプロ 2025」に出展しました。当社が提案する新商品「半透明フレキシブルコンテナバッグ」(半透明フレコン)を展示し、多くの来場者の皆さまにご紹介すると共に、貴重なご意見をいただく機会となりました。



●松本営業所に新設備を導入

12 12月 2024年 12月 2024年
 松本営業所に、古紙やペットボトルを圧縮・結束するペーラー設備と、ペットボトル専用の圧縮機を導入いたしました。
 これにより、資源物の体積を削減させ、保管・輸送の効率化を図ると共に、リサイクル工程での取り扱いやすさが向上し、再資源化の促進に繋がります。



●市場事業所にてペットボトル圧縮結束機を更新

12 12月 2024年 12月 2024年
 設備更新により処理能力が向上し、業務の効率化に加え、出荷工程における運搬回数の削減による環境負荷の低減や、作業負担の軽減・安全性の向上に繋がっています。



●森の元気をお手伝い! 第75回長野県植樹祭に参加

15 15日 2024年 15日 2024年
 「第75回長野県植樹祭」において、当社は佐久会場及び松本会場に参加しました。当日は多くの参加者と共に除伐作業を行い、森の整備に取り組みました。手入れ後の森は明るくなり、自然環境の大切さを実感する機会となりました。



●ボランティア・サポート・プログラムによる地域花壇の植え替えを実施

11 11月 2024年 15 15日 2024年
 秋古工場の国道19号線沿いの緑地帯花壇で、花の植え替えを行いました。本活動は、毎年参加している「ボランティア・サポート・プログラム」の一環として実施しており、地域の環境美化に取り組んでいます。



●清掃環境の日の取り組み

11 11月 2024年 11月 2024年
 毎週木曜日を「清掃環境の日」と定め、社屋周辺の清掃や除草、除雪を実施しています。



●東京都産廃エキスパート認定を更新

12 12月 2024年 12月 2024年
 「東京都産廃エキスパート(産業廃棄物処理業優良事業者)」の認定を更新しました。当社は、処理体制や環境保全への取り組みが評価されています。



●当社ではボイラーなど工作物の石綿事前調査に対応

3 3月 2024年 8 8月 2024年
 2026年1月1日より、工作物(ボイラー、加熱炉など)の改修・解体作業においても、石綿事前調査の有資格者による実施が義務となります。当社には必要資格を有する技術者が在籍しておりますので、石綿事前調査のご相談などは当社にご連絡ください。
 ※詳細は二次元コードよりご覧ください。



●リサイクル授業を開催

4 4月 2024年 12 12月 2024年
 リサイクルの仕組みと重要性を深く理解していただくため、小学校、養護学校など14校を対象に工場見学を実施しました。
 また、小学生の夏休み自由研究として「ペットボトルの行方」をテーマに、環境保護への理解を深める支援を行いました。



●長野県立大学主催イベント『WE-Nagano Global Conference 2025』に出展

11 11月 2024年 12 12月 2024年
 7月19日(土)に開催された長野県立大学主催イベント「WE-Nagano Global Conference 2025」に出展しました。
 企業ブースでは、家庭で不要になった子ども服やサイズアウトした衣類の古着回収を実施し、必要な団体等へ提供しました。また、「はたらくるまがやってくる」企画として、当社車両を展示し、地域の子どもたちに業務や社会的役割を親しみやすく紹介しました。



●工場見学・長野県経営大学講座を開催

4 4月 2024年 12 12月 2024年
 関東甲信越地区産業廃棄物処理対策連絡協議会様や一般社団法人長野県経営者協会様主催の長野県経営大学講座など、複数の団体・参加者の方々をお迎えし、当社工場で見学会を実施しました。ご参加いただいた皆さまには、当社の業務概要や環境配慮の取り組み、高度な廃棄物処理設備(AIロボット、自動クレーン、選別ライン、RPF製造など)をご紹介し、理解を深めていただきました。講義や意見交換を通じて、活発なコミュニケーションが行われ、充実した学びの機会となりました。



●社員の家庭で余ったカレンダーを寄贈

11 11月 2024年 12 12月 2024年
 長野県環境保全協会様主催の「カレンダープレゼント会」に協力し、社員の家庭から持ち余ったカレンダーを寄贈しました。本取り組みは、家庭で使用されないカレンダーを再利用し、廃棄物削減や資源の有効活用につなげると共に、地域住民の皆さまに無償で提供することで地域社会への貢献を図る活動の一環です。



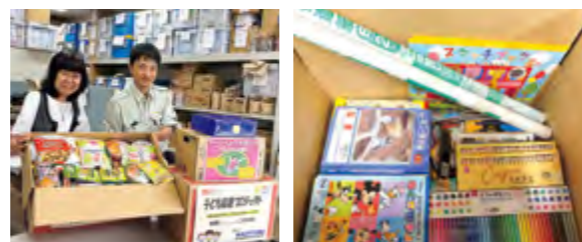
●「命をつなぐ救命処置とAED」活動を推進

3 3月 2024年 17 17日 2024年
 当社は、加入している長野市委託清掃事業協同組合(長野市の家庭ごみ・資源物収集業務委託)を通じて「全国スマイル・プログラム推進協議会」の活動に参加しており、AED操作や心肺蘇生法の訓練を定期的に行っています。また、長野市委託清掃事業協同組合の専用オレンジ色のパッカー車や各事業所にAEDを設置し、地域や職場の安全確保に取り組んでいます。今後も、救命処置とAEDの普及を通じて、命を守る活動を推進してまいります。



●子ども支援に関する取り組み

1 地域の子どもたちを支える活動として、「信州子どもカフェ（子ども食堂）」への寄付や、フードバンク信州様への協賛（寄付及び食料品寄贈）、子ども学習支援プロジェクトへの協力を行いました。子どもたちの成長を支える支援や食事の提供、学用品の支援などを通じて、子どもたちが安心して過ごし、学べる環境づくりに貢献しています。



●「長野県学校科学教育奨励基金」へ寄付

4 公益財団法人長野県学校科学教育奨励基金へ寄付を行いました。同基金は、長野県内の学校における科学教育の振興を目的として活動しています。本取り組みを通じて、教育環境の充実に貢献しています。



●世界中の子どもたちの命を救う活動に協賛しています

3 認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」(JCV)と提携し、ペットボトルキャップの回収を通じて寄付金を創出し、世界の子どもたちへのワクチン支援に取り組んでいます。この度、寄付証明書を受領しました。本取り組みは、環境負荷の軽減と社会貢献の両立に繋がっています。



●中国・石家庄市との交流

4 中国・河北省石家庄市との交流の一環として、直富希望小学校の皆さまや中学生友好代表団、経済代表団の皆さまをお迎えしました。当社が設立に関わった直富希望小学校の皆さまの受け入れをはじめ、工場見学や当社の取り組みをご紹介し、意見交換を行いました。また、中学生友好代表団及び経済代表団の皆さまは、長野市との友好交流の一環として来訪され、当社にもお立ち寄りいただきました。これらの交流を通じて、相互理解を深める機会となりました。



●カンボジアにおける支援・交流

4 カンボジアにおいて、水資源や教育支援の確保に関する取り組みを進めると共に、現地との交流を行っています。井戸の寄贈による生活環境の改善や、アンコール人材養成支援機構様を通じたパソコン寄付や学習環境の整備に協力しています。また、シエムリアップ州ユン・リネ副知事が当社工場を訪問され、当社の環境関連の取り組みをご視察いただきました。



●創業記念式典を開催

当社は1948年8月1日に創業し、2025年で創業77年を迎えました。これを記念し、8月1日に創業記念式典を開催しました。今後も創業の原点を大切にしながら、地域社会への貢献に取り組んでまいります。



●大豆島甚句祭りに参加

11 本社所在地である長野市大豆島（まめじま）地区で開催された『大豆島甚句祭り』に、当社社員40名が参加しました。「大豆島甚句」は長野市無形文化財にも指定されており、2025年で46回目の開催となります。地域の皆さまと交流する貴重な機会となりました。今後も地域に根ざした活動に取り組んでまいります。



●環境懇談会を開催

11 地元区の皆さまのご意見・ご要望を伺う場として、各事業所（本社工場、秋古工場、苦桃工場、東御営業所）において環境懇談会を開催しました。当日は、直近1年間の活動報告や今後の事業計画、騒音・振動・水質等の環境測定結果についてご説明しました。いただいたご意見を今後の事業活動に活かしてまいります。



●代表取締役インタビューが『TCG REVIEW』に掲載

株式会社タナベコンサルティンググループが運営・発行する『TCG REVIEW（タナベコンサルティンググループ・レビュー）』に、当社代表取締役 木下繁夫のインタビュー記事「長野から世界へ。サステナビリティを推進する直富商事の挑戦」が掲載されました。本記事では、研究開発やAIを活用した設備導入、地域社会との関わり、グローバル展開への取り組みなどを紹介しています。なお、本内容はWeb版記事をもとに冊子版（2026年3月号）にも掲載されています。



※詳細は二次元コードよりご覧ください。

●冷凍食品自動販売機を導入

8 福利厚生の一環として、長野県内で初めて、『吉野家（牛丼並）』と『はなまるうどん』を提供する冷凍自動販売機を導入しました。社内で手軽に利用でき、電子レンジで温めることで店舗と同様の味を楽しむことができます。持ち帰りにも対応しており、費用の一部を会社が負担する仕組みとしています。



●学生チャレンジ支援活動を強化

4 当社は、次世代を担う若者の育成を目的に、高校・大学との連携を深め、講義やインターンシップなどの教育支援活動を積極的に実施しています。

1. 高校・大学での講義

当社では、社員が教育機関での講義や交流活動に参加し、環境問題・サステナビリティの考え方や業界の動向、また進路選択やキャリア形成に役立つ内容をお伝えしています。学生が多様な視点に触れ、自身の将来を考えるきっかけとなる取り組みとして実施しています。2025年度は、長野市田戸分校の「卒業生と語る会（探求のオリエンテーション）」、信州大学全学教育センターの「環境マインド実践基礎論」にそれぞれ社員が登壇しました。「卒業生と語る会」では、就職活動の経験やキャリアに対する考え方を紹介し、学生との対話を通じて進路を考えるうえでのヒントを提供しました。「環境マインド実践基礎論」では、環境分野の課題や業界の現状についてお話しし、講義後には学生との意見交換も行われました。



2. インターンシッププログラムを実施

将来のキャリア形成を支援するため、インターンシッププログラムを実施しました。学生たちは実際の業務を通じてスキルを磨き、企業活動のリアルな現場を体験しました。2025年度は、信州大学、長野工業高校等の学生を受け入れ、学びの機会を提供しました。今後も教育機関との連携を強化し、より多くの学生に学びの機会を提供し、社会に貢献してまいります。



3. 長野県立大学との連携による地域課題解決活動を支援

学生の皆さまによる地域課題解決活動を支援することを目的に、地元の教育機関である公立大学法人長野県立大学へ寄付を行いました。この寄付に際し、大学より感謝状をいただきました。今後も大学との連携を深めながら、地域社会の持続的な発展に向けた取り組みに、貢献できれば幸いです。



4. 「地域探検」に協力

長野市立三陽中学校の「地域探検」学習の一環として、生徒の企業訪問を受け入れました。社員へのインタビューや工場見学を通じて、仕事や職場の雰囲気、そして資源循環の取り組みについて理解を深める機会となりました。インタビューでは、生徒たちが仕事のやりがいや入社経緯、日々の業務で心がけていることなどについて質問し、社員は自身の経験を交えて回答しました。工場見学では、資源の再利用や環境保全に向けた取り組みを紹介し、実際のリサイクル工程を見ていただきました。当社は今後も、地域の教育活動への協力を通じて、次世代を担う子どもたちの学びを支援してまいります。



環境



環境方針 基本理念

当社は循環型社会の担い手として“安全はすべてに優先する”“美と心地よさを残す”の企業理念に基づき、人間の社会活動と地球環境の保全との調和に貢献する事を旨とすると共に、自らが及ぼす環境への負荷を軽減し、もって地域住民との協調を図ります。

事業活動による製品及びサービスの提供にあたって環境保全に関する基本方針を以下に定めます。

1. 当社が定める環境マネジメントシステムによる環境管理を推進すると共に環境マネジメントシステムの継続的改善を図り、環境汚染の予防及び環境保護に努めます。
2. 当社の事業活動にかかわる環境に関する法規、条例、協定、その他当社が同意する要求事項及び自主基準を順守し、安全・遵法第一で行動します。
3. 当社の事業活動が環境に与える影響を考慮し、次の項目を重点事項として取り組みます。
 - ① お客様の環境負荷の低減の為にあらゆる廃棄物の再資源化に取り組み、循環型社会の形成に寄与します。
 - ② 省資源・省エネルギーを推進し、脱炭素社会の進展に寄与します。
 - ③ 大気汚染、水質汚濁、騒音、振動等の環境に与える影響を低減し、環境汚染の防止を図ります。
 - ④ 花と緑に囲まれた工場を創造・維持し、地域環境との調和を図ります。
4. 環境に関する社会活動、地域活動に積極的参加し、社会に貢献します。
5. 教育や啓蒙活動を通じて、従業員一人ひとりの環境保全に関する意識の向上を図ります。

環境マネジメントシステム

環境保全に貢献するため、ISO14001の登録認証を受け、環境マネジメントシステムに取り組んでいます。事業活動の目標達成がISOの目標と連動する仕組みの中で、エネルギーの効率的運用、廃棄物の再資源化、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。



本社・本工場

温室効果ガス排出削減の取り組み

●再生可能エネルギーの活用（太陽光発電システム）

本社第2工場の屋根に太陽光パネル270枚を設置しています。本システムで発電された電力は、再生可能エネルギーとして活用されており、環境負荷の低減に寄与する取り組みの一つとなっています。



2025年度の年間発電量

発電量 **59,942kWh**

●再生可能エネルギーの製造・利用（高純度BDF：バイオディーゼル燃料）

市場事業所で高純度BDF（バイオディーゼル燃料）を製造し、石油・エネルギー関連企業を中心に販売すると共に、一部を社内フォークリフト燃料として活用しています。高純度BDFは、植物由来の再生可能エネルギーであり、化石燃料の代替として環境負荷の低減に寄与しています。

2025年度の社内利用実績

13,651ℓ



●フロン類の回収実績

当社は第一種フロン類充填回収許可業者として、フロン排出抑制法に基づき廃冷蔵庫、エアコン、自動販売機などからフロンガスを確実に回収し、適切な処理を行っています。これにより、温暖化防止やオゾン層の保護に貢献し、環境への負荷を最小限に抑えると共に、持続可能な社会の実現を目指しています。

2025年度の引取実績

フロン類(引取量) **856.89kg**

資源循環の推進

●RPF(固形燃料)の製造

廃棄物の有効活用による化石燃料消費削減を目的として、RPF (Refuse Paper & Plastic Fuel) の製造に取り組んでいます。RPFの原料には、高度機械選別工程を経た廃棄物を使用しています。現在は、成形機2機による安定した稼働体制を確立しており、年間10,000tを超えるRPFの生産が可能です。製造したRPFは、国内の製紙メーカー各社へ供給され、化石燃料の代替として活用されています。廃棄物を単に処分するのではなく、エネルギー資源として再活用することで、CO₂排出削減に寄与しています。



RPF

環境負荷低減に向けた日常業務での取り組み

●GPS付ドライブレコーダーを活用した安全運転・エコドライブ推進

1. 運転の効率化

GPS機能により、運転ルートや速度、走行時間をリアルタイムで把握でき、無駄なアイドリングや非効率なルート選択を減少させることができます。これにより燃料消費が抑えられ、CO₂排出量が削減されます。

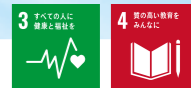
2. エコ運転の促進

ドライブレコーダーが急加速、急ブレーキ、過剰なアイドリングなどの危険運転を警告する機能を持つことが多いため、ドライバーがエコ運転を意識しやすくなります。エコ運転を実践することで、燃費が向上し、結果としてCO₂の排出量が減少します。

3. 運転データの分析

GPS付ドライブレコーダーで収集した運転データを分析し、運転行動を改善することができます。例えば、運転の無駄を見つけて指導を行うことで、全体的な燃料消費量を削減し、CO₂排出量の低減に繋がります。

コンプライアンス・リスク管理



基本方針

1. 経営理念を具現化する為に、社員への遵法・環境教育を充実させ、教育内容の周知徹底及び浸透を図る
2. 廃棄物処理法違反を起こさない

コンプライアンス行動指針

毎日、朝礼でコンプライアンス行動指針を読み上げ、社員の遵法意識の向上に努めています。

コンプラ HOT LINE

法律違反や不正行為などのコンプライアンス問題が発生、またはその可能性を感じた社員が、社外の専用窓口へ直接通報できる仕組みです。会社や社員による法令違反やその兆候、ハラスメントの被害・目撃など、社内で報告しにくい事案も安心して通報できます。

コンプライアンスマニュアル

コンプライアンスマニュアルは、社員が倫理観を持ち、企業理念に基づいて行動するための指針を提供するものです。このマニュアルには、法令遵守や企業倫理に関する基本的な方針、具体的な行動規範が記載されています。社員一人ひとりが公正で誠実な行動を実践し、企業価値や社会的信用の向上に貢献できるようサポートします。また、マニュアルは定期的に見直し、最新の法令や社会的要求に適切に更新されます。



詳細は二次元コードよりご覧ください。▶

遵法報告

2025年度において、行政処分及び行政指導はありませんでした。「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」を遵守するため、設備の点検記録やマニフェストの保管管理など、社内独自のルールを整備しています。また、内部監査制度を活用し、違反を未然に防止するための対策を講じています。

廃棄物の知識を深める

廃棄物処理業者として、社員が廃棄物に関する法律を理解することは不可欠です。そのため、知識向上を目的に、コンプライアンス担当が主催する「遵法勉強会」を毎月開催しています。勉強会の動画データは専用サイトで公開し、社員が繰り返し視聴できる環境を整えています。また、必要に応じて外部研修を受講し、専門的な知識を習得すると共に、社内勉強会を通じて周知徹底を図っています。さらに、社外取締役（弁護士）による勉強会も定期的に開催し、法的知識の向上を推進しています。また、直近の改正廃掃法の対応として、2026年1月より産業廃棄物処理委託契約書の法定記載事項に「特定化学物質」の情報提供の旨が追加されたため当社契約書ひな形を更新しました。加えて2027年4月より運用が開始される電子マニフェストの最終処分報告追加事項の「再資源化等の情報」のパターン作成など準備を進めています。

2025年度に実施した遵法勉強会の内容

- 電子マニフェストの概要
- 専ら物とは
- 産業廃棄物処理委託契約書
- 産業廃棄物の種類・業の区分
- 改正廃掃法関連
- 松本営業所の許可内容
- 職場におけるセクシャルハラスメントの実態と企業が取り組むべき事
- 秋古工場新焼却炉に関する概要及び許可関連事項
- 廃棄物処理業の罰則・欠格要件
- 家電リサイクル法
- 自社中間処理後のフロー
- コンデンサ・金庫の取り扱い
- アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）



内部監査

法令遵守や業務の適正化を目的として、定期的に内部監査を実施しています。各部門の業務が社内規程や関連法令に基づいて適切に行われているかを確認し、不正やリスクの防止、業務の効率化を図ります。監査で指摘された事項については速やかに改善を行い、より透明性の高い企業運営を推進しています。

外部監査

客観的かつ専門的な視点から企業運営の透明性と適正性を確保するため、外部機関による監査を定期的に実施しています。外部監査では、企業のガバナンスやリスク管理体制、コンプライアンスの実効性などを総合的に評価し、第三者の立場から改善点を指摘・助言いただくことで、経営の健全性を高めています。監査結果については、経営層及び関係部門と共有し、外部の知見を活かしながら組織全体の継続的な改善に取り組んでいます。今後も外部監査を活用し、社会的責任を果たしながら、より信頼される企業運営を目指してまいります。

安全衛生の取り組み



基本方針

事故を起こさない、社員にケガをさせない
安全衛生活動のレベルアップ

労働安全

安全推進体制

各拠点の責任者で安全衛生委員等を構成し、安全衛生に関する方針の立案、活動の推進、指導を継続し、安全衛生活動に取り組んでいます。

安全教育・研修の実施

●安全大会

長野市内の家庭ごみを回収する環境部清掃グループにて、安全大会を開催しました。当社の過去の事故事例を紹介すると共に、当時策定した再発防止ルールについて事務局より説明を行い、安全意識の再確認を図りました。また、ドライブレコーダー映像を用いた交通KY（危険予知）を実施し、二班に分かれて事故リスクをクイズ形式で討論するなど、参加型の取り組みを行いました。さらに、社内のベストドライバーによる安全講話も実施し、日常の安全運転で心がけているポイントを共有しました。

●外部講師による勉強会開催

外部から専門家を講師として招き、社内の有資格者を対象とした勉強会を開催しました。専門家による解説やデモンストレーションを通じて、機械操作の正しい手順や事故防止のポイントについて理解を深め、安全作業の重要性を再確認しました。

●安全体感研修

工場の現場に従事する社員を中心とした「安全体感研修」を外部の研修施設にて実施しました。この研修は、職場での安全意識を高め、事故防止に向けた取り組みを強化することを目的としています。専門の講師による理論と実技の講義を通じて、安全に関する知識を深め、参加者は実際の危険な状況を体験しながら、安全行動の重要性を再認識しました。

●交通安全の取り組み

交通事故の防止と安全意識の向上を目的として、様々な交通安全教育に取り組んでいます。ながらスマートフォンの危険性や雪道運転に関する交通安全ビデオの放映、交通ヒヤリハットマップの作成と社内周知、バック事故防止のための映像教育などを実施しました。また、交通事故当事者への再教育やトラック同乗指導者教育、OD式運転適性検査の結果に基づく指導を行い、安全運転の徹底に努めています。

●リスクアセスメント勉強会

事故の未然防止を目的として、リスクアセスメントに関する勉強会を実施しています。「危険有害作業とは何か」「保護具の重要性」「リスクアセスメントとは」をテーマに複数回の勉強会を開催し、年間を通してリスクアセスメントへの理解を深めました。

日常業務における安全管理の取り組み

●ドライブレコーダーの活用

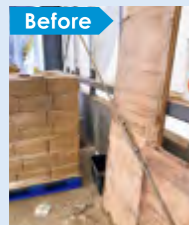
安全管理の一環として、ドライブレコーダーを積極的に活用しています。記録された映像を通じて運転手の安全意識の向上や危険運転の防止を図ると共に、事故やトラブル発生時には状況を正確に把握し、迅速な対応に役立っています。さらに、映像を活用した教育やフィードバックを行うことで運転マナーや運転技術の向上に繋がっています。

●安全パトロール

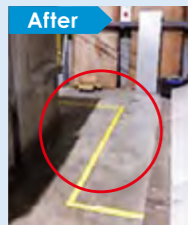
毎月実施している安全パトロールでは、安全かつ法令に則った作業が行われているかを確認しています。今年度はパトロールの実施機会を増やし、多くの現場で確認を行いました。指摘事項があった場合には進捗管理を行い、是正措置を徹底することで、問題の早期解決と再発防止に努めています。

2025年度指摘件数: 100件

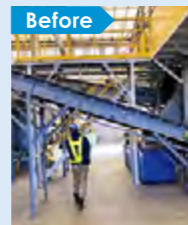
▶ 整理整頓、不安全行動、不安全状態を指摘しました



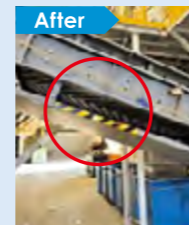
Before
火災報知器周辺が片付いていない。



After
整理をして表示を行い、動線を確保しました。



Before
避難経路を横断するコンベアに気づきにくい。

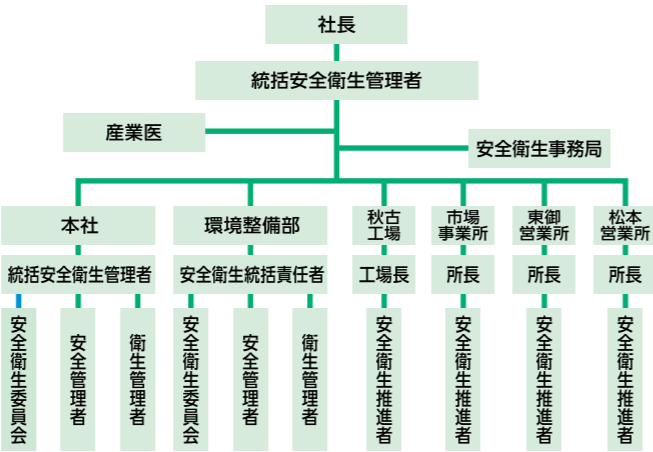


After
注意喚起の表示を行った。

2025年度安全衛生スローガン

油断しない 慣れの先にはケガと事故 基本に戻って安全作業

最優秀賞：環境整備部 宮澤 泰



開催した勉強会

- 床上操作式クレーン勉強会
- 積載形トラッククレーン勉強会
- フォークリフト勉強会

年間安全表彰

事故削減及び事故防止の観点から評価を行い、最優秀賞・優秀賞を表彰しています。



● 市場事業所

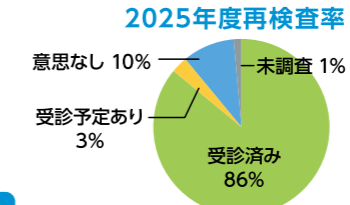


- 原料部
- 環境部 清掃グループ
- 環境整備部

労働衛生

健康経営優良法人2026 (中小規模法人部門) 認定

経済産業省及び日本健康会議が運営する健康経営優良法人認定制度において、健康診断再検査の推奨、ストレスチェック100%実施等の取り組みが評価され、健康経営優良法人2026 (中小規模法人部門) に認定されました。



当初掲げていた目標を達成!

2030年度までに再検査率80%目標 (SDGs重点取り組み事項)



健康づくりチャレンジ宣言

全国健康保険協会 長野支部の「健康づくりチャレンジ宣言」に登録し、心身共に元気な職場「健康企業」を目指しています。

活動内容

1. 社員の健康管理、健康増進の為の情報を、社内ツールを活用して発信
2. 定期健康診断の結果、要治療、要精密検査となった方への再受診を推奨

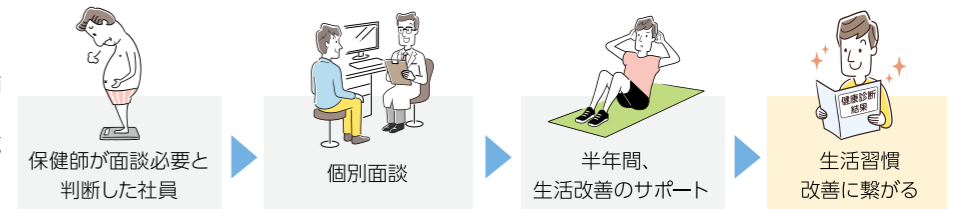


健康・医療に関する無料相談サービス



特定保健指導

生活習慣病の重症化を防ぐため、保健師による生活改善指導を実施しています。2025年度は、9月に34名を対象に実施しました。



産業医健康相談

- 長時間勤務の人
- メンタルも含めて不安なことがある人
- 健康診断の結果についてより深く知りたい人
- ケガ (労災等) からの職場復帰相談



産業医より提出される報告書から、配慮すべき事項の指導を受け、会社として社員の健康管理に役立っています。

病气入院補償制度

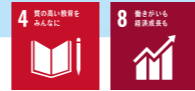
病气入院補償制度は、従業員が病気で入院した際に、経済面での給付金支給や精神面でのサポートを提供し、従業員の生活の安定と安心を支援する制度です。

立作業における身体的負担軽減装置の導入

長時間の立ち作業による足腰への負担軽減と、より快適に働ける職場環境の整備を目的として、アルケリス社製のサポートデバイス「スタビハーフ」及び「疲労軽減ジェルマット」を導入しました。「スタビハーフ」は、スネやヒザに体重を預けることで足腰への負担を分散するスタンディングレスト (立ち姿勢補助具)、「疲労軽減ジェルマット」は足裏への負担を和らげる専用マットとして活用しています。現在、複数の工場を導入し、立作業に伴う身体負担の軽減に取り組んでいます。



ステークホルダーコミュニケーション



当社では、社内外のステークホルダーとの対話・情報共有を深め、組織としての成長と社会への価値提供に繋げることを重視しています。その取り組みの一環として、営業会議の活性化及び各種イベントへの積極的な出席を進めています。

●【DAM(ダム):Dynamic Action Meeting】の取り組み

当社では、これまで行っていた営業会議を「DAM(Dynamic Action Meeting)」として再定義し、メンバーが主体的に参加、発信することを目的とした“動く会議”へと進化させています。これまでは、日々の営業活動で得られた情報や課題を共有し、活発な意見交換を通じて、より効果的な営業活動の実現を目指してきました。これに加え、私たちから「直富商事」を周囲に発信・交流することで、当社がどのような会社であるか、また当社の取り組みについて皆さまに知っていただく機会を創出することも目的としています。また、トップが掲げる「考動(考え、行動する)」の理念のもと、若手営業メンバーが中心となって各種イベントの企画・運営にも取り組みました。テーマ設定やブース構成、来場者への説明対応などを自ら担うことで、主体性の向上や人材育成にも繋がっています。



イオンモール松本『まちのおしごと体験』出展



「いいコネまつり × 第9回綿半まつり」出展

●イベント出展を通じた社会との対話

本年度は複数のイベントに出展し、地域や業界のお客様と直接対話する機会を創出しました。展示ブースでは、当社が長年培ってきた廃棄物処理事業の専門性や、地域に根ざした事業姿勢、さらには持続可能な社会の実現に向けた取り組みについて、多くの方々に発信することができました。これらの活動は、地域との関係構築や社会との対話促進に繋がると共に、従業員の経験値向上やコミュニケーション能力の強化など、人材育成の面でも重要な取り組みとなっています。



ダイバーシティへの取り組み

□ ダイバーシティの推進と働きやすい職場環境づくり

持続的な企業価値の向上を実現するためには、「人」こそが原動力であり、あらゆる多様性を尊重し、社員一人ひとりが自らの強みを最大限に発揮できる職場づくりに取り組むことが、企業の成長はもちろん、ステークホルダーの成長にも繋がります。社員一人ひとりが使命感を持ち、自発的・積極的に挑戦できると共に、能力と意欲ある社員が適切に評価され、活躍できる組織を目指します。そして、互いの個性を受け入れ、組織として活かしあえる職場環境を作り上げていきます。また、社員一人ひとりが仕事と私生活を両立させることができ、ライフステージに応じて柔軟な働き方を選択しながら、安心して働ける環境を整えることにより、能力を最大限に発揮できる職場を目指しています。

～人事・労務データ～

(2026年2月末現在)

社員数		新卒採用 (男性/女性)	新卒5年未満の 離職率	平均 勤続年数	障がい者 社員数	定年後 再雇用社員数	産休育休中 社員数
合計	男女比(男性/女性)						
741名	426名/315名	5名(3名/2名)	15.0%	10.24年	12名	19名	5名

●長野県社員の子育て応援宣言

社員一人ひとりのワークライフバランスを推進するため、子育てしやすい環境を整備し、安心して育児ができる環境づくりを目指し、「社員の子育て応援宣言」を掲げています。

宣言内容

- 1.男女共に育児休業を取得しやすい職場環境をつくるため、社内研修や育休対象者との面談を実施し、育児休業に関する情報を提供しています。
- 2.育児休業者の代替要員の確保や業務分担の見直しを行い、職場復帰しやすい環境を整えています。
- 3.20歳未満の子どもを持つ社員に家族手当を支給し、子育て支援を行っています。
- 4.小学校就学前の子どもを持つ社員は、短時間勤務制度があります。
- 5.小学校3年生までの子どもを持つ社員は、入園(入学)式・卒園式や子どもの病気・学級閉鎖などの際に休める休暇制度があります。



●長野県職場いきいきアドバンスカンパニー アドバンスプラス認証

長野県が推進する「職場いきいきアドバンスカンパニー」制度において、アドバンスプラス認証を取得しています。「ワークライフバランスコース」「ダイバーシティコース」「ネクストジェネレーションコース」の3コース全てで認証を受け、上位認証である「アドバンスプラス」として認定されました。

職場いきいき アドバンスカンパニー 認証とは

仕事と家庭の両立支援や雇用の安定を図り、従業員がいきいきと働き続けられる職場環境を作るために、短時間正社員制度など多様な働き方を導入し、実践的な取り組みを行っている企業、法人、団体、個人事業主を認証する長野県の制度です。

●ハラスメント防止勉強会

職場環境の向上と従業員の安全・幸福を最優先に考え、ハラスメント防止に向けた積極的な取り組みを行っています。その一環として、ハラスメント防止に関する従業員の意識向上と理解促進を目的とした勉強会を実施しました。この勉強会では、ハラスメントの種類、予防方法、そして適切な対処法についての知識を共有しました。



●能力開発(資格取得応援制度)

組織の活性化や社員の成長意欲の向上を目的とし、社員がスキルアップのために資格取得に取り組むことを奨励・支援する制度です。該当資格(一例):eco検定、ビジネスマネジャー検定、コミュニケーション検定、産業廃棄物処理検定、秘書検定 等

●懇親会補助制度

普段一緒に仕事をしている部署の仲間と、情報共有やお互いの親睦を深めることを目的とした懇親会を定期的に開き、年に2回一人当たり3,000円を上限とした懇親会費を補助しています。

●その他

社内報発行(隔月)、人事考課制度、正社員登用制度、成人祝金、永年勤続表彰、お子様の小中学校入学祝金、奨学金返還支援制度、確定拠出年金制度



●年間優秀社員表彰

毎年、社員の努力と成果を称えるために「年間優秀社員表彰」を実施しています。各分野で活躍する優秀な社員を選出し、その貢献を讃えています。受賞者は、それぞれの分野で模範的な働きを示し、会社の成長や企業理念の実現に大きく貢献しました。今後も、社員一人ひとりが意欲的に成長し、活躍できる環境づくりに取り組んでまいります。

—— 2025年度は、優秀ドライバー職 4名、優秀ヤード職 2名の社員が表彰されました。 ——

👑 優秀ドライバー職



黒澤 茂雄 (Shigeo Kurosawa) 松本営業所
田中 航太 (Kouta Tanaka) 環境部浄掃G
傳田 龍世 (Ryusei Denda) 環境部
松澤 裕典 (Hironori Matsuzawa) 東御営業所

👑 優秀ヤード職



黒沢 頼人 (Raito Kurosawa) 環境部
杉山 信之 (Nobuyuki Sugiyama) JR事業部

●育児と仕事の両立支援

多様な人材がそれぞれのライフステージに応じて能力を発揮し、安心して働き続けられる職場環境の整備が、企業の持続的な成長に繋がるものと考えています。その考えのもと、仕事と育児の両立支援を重要なテーマの一つとして位置づけ、各種制度の整備に加え、運用面の充実にも取り組んでいます。



▶産前産後休業・育児休業制度

この制度では、原則として子どもが2歳に達するまで休暇を取得できます。性別や年齢に関係なく、多様な人材が活躍でき、休暇取得後も安心して働き続けられる環境づくりをしています。

▶出生時育児休業(産後パパ育休)

育児休業制度とは別に、子どもが出生後8週間以内に最大4週間まで育児休業を取得できます。男性社員の育休取得率も年々向上しています。

2025年度育児休業取得率(出生時育児休業含む)

女性100%(対象者4名/取得者4名)
男性33%(対象者3名/取得者1名)
育児休業取得率…2025年度中に新たに育児休業の取得が可能となった社員数に対する2025年中に新たに育児休業を取得した社員数の割合

●介護と仕事の両立支援

▶介護休業制度

要介護状態の家族一人について、93日の範囲内で3回を上限として休業を取得できます。

●高齢者の社員の活躍

定年退職後、再雇用制度を利用して60歳以上の社員が活躍しています。長年の経験やスキルに基づく人脈やノウハウを活用するだけでなく、多様な価値観を社内に取り込み、組織の活性化を図ることができます。

●障がいのある社員の活躍

障がいのある社員が様々な職場で活躍しています。作業環境の改善など、働きやすい職場づくりのきっかけとなっています。



●社員の声を活かす対話の取り組み

社員一人ひとりの声や気づきを職場づくりに活かすため、部門や職種ごとに意見交換の場を設けるなど、日常的な対話の機会づくりに取り組んでいます。その取り組みの一環として、今回初めて、女性社員を対象としたランチ会を実施しました。日常業務の中では表に出にくい視点や、女性社員ならではの気づきについて意見を交わす機会となり、今後の職場環境づくりを考えるうえで参考となる意見が寄せられました。



□ 友好会活動

社員の親睦を目的とした「友好会」を結成し、社員主体で各種行事の企画・運営を行っています。2025年度においても複数の行事を実施し、部門の垣根を越えた交流の機会づくりに取り組みました。これらの取り組みを通じて、普段接点の少ない遠方の営業所の社員同士が交流し、相互理解や社内コミュニケーションの促進に繋がっています。



ソフトボール大会



社員旅行

2025年度活動実績

開催月	活動内容
6月	ゴルフコンペ
	社員旅行(伊香保温泉コース)
8月	ソフトボール大会
10月	本社BBQ大会
	東御営業所BBQ大会

実績データの開示

環境測定データ

工場における環境保全対策として、臭気、排水水質、騒音、振動などの項目を定期的に測定しています。測定結果は、全ての項目で法令及び自主基準を遵守していることが確認されました。周辺住民や社員の健康に悪影響を及ぼさないよう、引き続き厳格に管理を行ってまいります。



排水水質測定結果

測定項目名 【単位:mg/L (pHは無単位)】	一律排水基準 ()内は下水排除基準	本 社			秋古工場		市場事業所 洗車場	苦桃工場	東御 営業所
		北側	南側	第3工場	①	②			
		2025年12月	2025年12月	2025年12月	2025年10月	2025年10月			
水素イオン濃度 (pH)	5.8~8.6(同左)	7.4	7.3	7.7	7.1	7.7	6.8*	7.9	7.1
生物化学的酸素要求量 (BOD)	160(600)	<0.5	3.0	1.2	0.8	6.1	0.8*	16	—
浮遊物質 (SS)	200(600)	<1	2	2	1	9	<1*	2	1
ノルマルヘキサン抽出物 (鉱油類)	5(同左)	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0*	<1.0	<1.0
ノルマルヘキサン抽出物 (動植物油脂類)	30(同左)	<1.0	3.0	1.2	<1.0	<1.0	<1.0*	<1.0	<1.0
カドミウム	0.03	—	—	—	<0.005	<0.005	—	—	—
シアン	1	—	—	—	<0.01	<0.01	—	—	—
鉛	0.1	—	—	—	<0.05	<0.05	—	—	—
六価クロム	0.5	—	—	—	<0.02	<0.02	—	—	—
ひ素	0.1	—	—	—	<0.002	<0.002	—	—	—
水銀	0.005	—	—	—	<0.0005	<0.0005	—	—	—
1,1,1-トリクロロエタン	3	—	—	—	<0.0005	<0.0005	—	—	—
トリクロロエチレン	0.1	—	—	—	<0.002	<0.002	—	—	—
テトラクロロエチレン	0.1	—	—	—	<0.0005	<0.0005	—	—	—
ほう素	10	—	—	—	<0.1	<0.1	—	—	—
ふっ素	8	—	—	—	0.13	0.22	—	—	—
アンモニア,アンモニウム化合物,亜硝酸化合物及び硝酸化合物	100	—	—	—	2.0	1.5	—	1.4	—

*は下水道への放流水 ※<は、定量下限値未満を示します。

工場敷地境界・周辺の騒音・振動測定結果

測定項目名【単位】	工場・営業所		本社工場		秋古工場		苦桃工場		東御営業所		市場事業所	
	測定日		2025年12月		2025年12月		2025年7月		2025年8月		2025年7月	
	基準	騒音	自主基準 70		環境基準 60		自主基準 65		規制基準 70		規制基準 70	
		振動	自主基準 70		保全目標 65		—		規制基準 70		規制基準 70	
測定地点	敷地境界				敷地境界				敷地境界			
	東	西	南	北	東	西	南	北	南東	北東	北西	直近民家との敷地境界
騒音【dB (A)】	67	54	64	63	49	59	56	63	57	61	58	60
振動【dB】	54	34	47	46	<30	—	—	—	38	30	36	34

※<は、定量下限値未満を示します。

排ガス関係(ばい煙発生施設)

測定項目名【単位】	秋古工場廃棄物焼却炉			苦桃工場蒸気ボイラー		
	排出基準	結果	測定年月	排出基準	結果	測定年月
ばいじん量酸素補正值【g/m ³ 】	0.15	<0.001	2025年9月	0.3	0.002	2025年7月
硫黄酸化物排出量【m ³ /h】	9.9	<0.2	2025年9月	1.7	0.055	2025年7月
窒素酸化物量酸素補正值【cm ³ /m ³ 】	250	96	2025年9月	260	58	2025年7月
塩化水素量酸素補正值【mg/m ³ 】	350	41	2025年9月	—	—	—
全水銀【μg/m ³ 】	30	1.1	2025年9月	—	—	—
ダイオキシン類【ng-TEQ/m ³ 】	5	0.69	2025年9月	—	—	—

※<は、定量下限値未満を示します。

工場敷地境界・周辺の臭気測定結果

測定項目名【単位】	基準	秋古工場周辺環境 2025年12月	苦桃工場風下周辺環境 2025年7月	東御営業所風下敷地境界 2025年8月	市場事業所風下敷地境界 2025年7月
臭気指数	なし	< 10	< 10	—	—
スチレン【ppm】	0.8(第1地域),2(第2地域)	—	—	< 0.03	< 0.03

※<は、定量下限値未満を示します。

特定悪臭物質の測定結果

測定項目名 【単位:ppm】	基準	本社第3工場北側敷地境界 2025年8月	本社第3工場南側敷地境界 2025年8月
アンモニア	5	0.3	0.2
メチルメルカプタン	0.01	<0.002	<0.002
硫化水素	0.2	<0.002	<0.002
硫化メチル	0.2	<0.002	<0.002
二硫化メチル	0.1	<0.002	<0.002
トリメチルアミン	0.07	<0.001	<0.001
アセトアルデヒド	0.5	<0.0005	<0.0005
プロピオンアルデヒド	0.1	<0.0005	<0.0005
ノルマルブチルアルデヒド	0.03	<0.0005	<0.0005
イソブチルアルデヒド	0.07	<0.0005	<0.0005
ノルマルパレルアルデヒド	0.02	<0.0005	<0.0005
イソパレルアルデヒド	0.006	<0.0005	<0.0005
イソブタノール	4	<0.05	<0.05
酢酸エチル	7	<0.05	<0.05
メチルイソブチルケトン	3	<0.05	<0.05
トルエン	30	<0.03	<0.03
スチレン	2	<0.03	<0.03
キシレン	2	<0.08	<0.08
プロピオン酸	0.2	<0.0005	<0.0005
ノルマル酪酸	0.006	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	0.004	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	0.01	<0.0005	<0.0005

※<は、定量下限値未満を示します。

工場敷地境界・周辺の粉じん測定結果

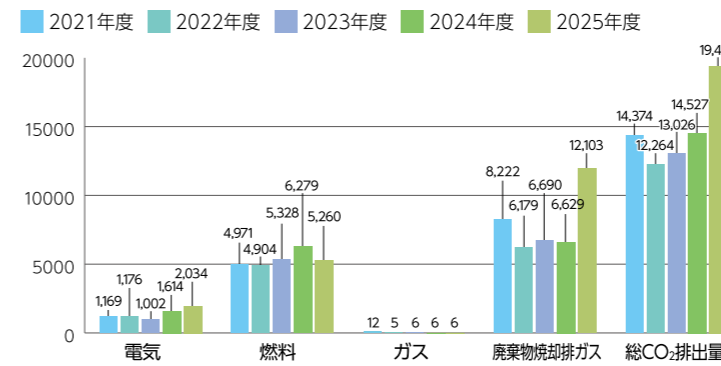
測定項目名 【単位】	基準	本社第3工場北側敷地境界 2025年12月
粉じん濃度 【mg/m ³ 】	1時間値の1日平均値 0.10 1時間値 0.20	0.007

工場敷地境界の大気中水銀測定結果

測定項目名 【単位】	基準	本社第2工場北側敷地境界	
		2025年5月	2025年11月
水銀 【μg/m ³ 】	0.04	0.003	0.005

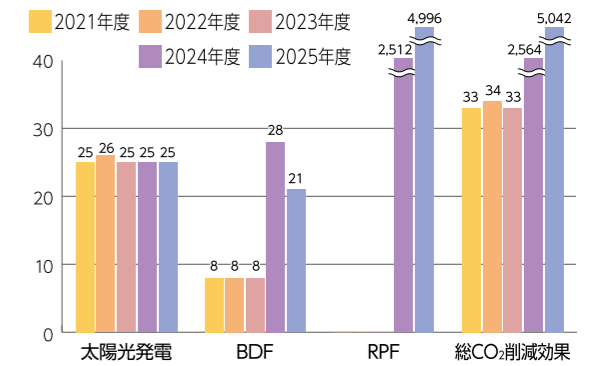
CO₂データ

CO₂排出量(t-CO₂/y)



CO ₂ 排出量 (t-CO ₂ /y)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
電気	1,169	1,176	1,002	1,614	2,034
燃料 (ガソリン・軽油・灯油)	4,971	4,904	5,328	6,279	5,260
ガス (都市ガス・LPガス・プロパンガス)	12	5	6	6	6
廃棄物焼却排ガス	8,222	6,179	6,690	6,629	12,103
総CO ₂ 排出量	14,374	12,264	13,026	14,527	19,403

CO₂削減効果(t-CO₂/y)



CO ₂ 消費量(t-CO ₂ /y)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
太陽光発電による電気量削減	25	26	25	25	25
BDF製造・販売による燃料費削減	8	8	8	28	21
RPF代替によるCO ₂ 削減効果	—	—	—	2,512	4,996
総CO ₂ 削減効果	33	34	33	2,564	5,042

※2025年度は販売のみの数値

◎編集方針……本報告書は、直富商事の全事業について掲載すると共に、環境及び社会的側面における活動実績を報告しています。

◎報告対象期間…2025年度(2025年3月1日~2026年2月28日) ◎発行年月…2026年5月

お問い合わせ先 直富商事株式会社 管理本部 総務部 TEL/026-222-1880 FAX/026-222-5011